

令和7年度

運営に関する計画

年初計画

大阪市立大江小学校

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)**1 学校運営の中期目標****現状と課題**

本校は、明治7年(1874年)に創立され、150年を超える歴史と伝統のある学校である。親子三代以上に渡って本校に通う地域の方も多く、保護者や地域の方々にとっても、本校に対する期待と誇りは非常に大きなものがある。長い歴史と受けつがれた伝統を引き継ぎつつも、新たな実践を取り入れながら未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を展開している。

本校の児童の規範意識は高く、きまりや規則を守って生活しようと努力する態度が見られる。また、相手のことを考えた発言や行動ができる児童が多い。学力は比較的高く、真剣に授業を受ける姿が常に見られる。これらを維持していくことを必須ととらえている。

そのうえで、言語力を基盤に言語活動へ深化させ充実させていくことが本校の課題である。その課題解決に加えて、自ら問い合わせを発見したり他者の考えと交流させたりしながら新たな価値を見出していく素養のある集団に育成していく。

また、児童数に対して運動場が狭い学校であり、意図的計画的に体力・運動能力の育成をしていく必要性もある。環境に左右されず、生涯体育の観点から自ら取り組み必要とする体力をつけていくことにも取り組みたい。

さらには、グローバル化が急速に進む現代にあって英語力の向上にも取り組んでいく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 校内の児童アンケート「自分には、良いところがある。」において肯定的に答える割合を90%以上にする。
- 校内の児童アンケート「元気に楽しく学校へ通っている。」において肯定的に答える割合を94%以上にする。
- 校内の児童アンケート「まわりの人にやさしくしようしたり、ひとりでいる子がないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を8%以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内の児童アンケート「学習で話し合う時には、自分からすすんで意見が言えた。」において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 校内の児童アンケート「自分からすすんで学習に取り組めた。」において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 全国学力・学習状況調査における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」に対して「ほぼ毎日」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 校内の教職員アンケート「日頃から学びたくなる仕掛けや体を動かしたくなる仕掛けなど、子どもたちがすすんで○○したくなる仕掛けづくりを心掛けている。」と肯定的に回答する割合を100%にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む） **※運営に関する計画再掲**
【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ① 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を 91 %以上にする。
- ② 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活している」において、肯定的な回答をする児童の割合を 94 %以上にする。
- ③ 校内のアンケート「まわりの人にやさしくしようとしたり、ひとりでいる子がいないようしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を 6 %以下にする。
- ④ 全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83 %以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

1 出席人数の増（学校内外で ICT 等を活用した学習活動をすることによる出席認定を含む）

2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**学校園の年度目標**

- ① 校内の児童アンケートで、「学校で学習することが好きである」、「自分から進んで学習に取り組めた」において、肯定的な回答をする児童の割合を昨年度と同等または向上させる。
- ② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れ、児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を 86 %以上にする。
- ③ 読解力を高めるための読書指導や取り組みを進めていく、児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的な回答をする児童の割合を 85 %以上にする。
- ④ 校内の児童アンケートで、「健康や安全に気を付けて進んで体を動かすことができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を 80 %以上にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

- ⑤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **45.0%以上** にする。
- ⑥ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ⑦ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **85%以上** にする。
- ⑧ 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を **92%以上** にする。

【学びを支える教育環境の充実】**学校園の年度目標**

- ① 教職員アンケートの「授業において週に 1 回以上、学習者用端末を活用する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を **85%以上** にする。
- ② 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を大阪市の平均以上にする。
基準 1 : 45.3%以上 基準 2 : 70.5%以上
※基準 1…1か月の時間外勤務実績が 30 時間を超えないようにすること
※基準 2…1か月の時間外勤務実績が 60 時間を超えないようにすること
- ③ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。
- ④ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
 - 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合 100% を維持する。
 - ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。
 - 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を満たす割合を 77%（100% を維持）以上にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。R6 : 90.6%</p> <p>② 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活している」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。R6 : 93.6%</p> <p>③ 校内のアンケート「まわりの人にやさしくしようしたり、ひとりでいる子がいなないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を6%以下にする。R6 : 6.8%</p> <p>④ 全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。R6 : 82.9%</p> <p>⑤ 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>1 出席人数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定を含む）</p> <p>2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【2 豊かな心の育成】</p> <p>クラス・学年内での友だちとの関わりやたてわり班活動など、様々な活動で他者とのかかわりを深めることにより、自尊感情を育むことができようとする。</p>	
<p>指標 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。R6 : 90.6%</p>	
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向が見られる児童の情報を共有し、その子に合った温かな対応を行っていく。また、保護者やSC、SSWなど関係諸機関とも連携し、一人も取り残すことなく、すべての児童とつながっていくこと、心を通わせていくことに努める。</p>	
<p>指標 校内の児童アンケートで、「元気に楽しく学校へ通っている。」において、否定的な回答をする児童の割合を6%以下にする。R6 : 6.8%</p>	

取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】

各学年、情報モラル教育を推進していき、情報の取り扱い方や規範意識を養うことができるようとする。

指標 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。**R6: 93.6%**

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【安全・安心な教育の推進】

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 校内の児童アンケートで、「学校で学習することが好きである」、「自分から進んで学習に取り組めた」において、肯定的な回答をする児童の割合を昨年度と同等または向上させる。 R6：学習が好き 82.1%、進んで学習 84.9%</p> <p>② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れ、児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を 86%以上にする。 R6:85.9%</p> <p>③ 読解力を高めるための読書指導や取り組みを進めていき、児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。 R6:83.5%</p> <p>④ 校内の児童アンケートで、「健康や安全に気を付けて進んで体を動かすことができる」において、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。 (新設)</p> <p>⑤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45.0%以上にする。 R6:44.7%</p> <p>⑥ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>⑦ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 R6:82.2%</p> <p>⑧ 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。 R6:91.3%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①－1 【4 誰一人取り残さない学力の向上】 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。	
取組内容①－2 児童が多様な他者と協働する方法を理解し、思考力と表現力を身に付けるよう指導の手立てを工夫する。	
指標 児童アンケートを実施し、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 86%以上にする。 R6:85.9%	

※裏面に記入欄あり

取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】

学級文庫や図書室の整備、図書の時間の充実や読み聞かせなど本に親しむ機会を充実させ、本を読む楽しさ、本を読んだ達成感や成就感を味わえるような指導や取り組みを進めていく。

指標 児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 **R6:83.5%**

取組内容③【5 健やかな体の育成】

体力・運動能力向上に向け、児童が進んで運動に取り組めるよう、楽しい体育授業づくりや運動環境整備を進める。

指標 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。 **R6:91.3%**

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。(新設)</p> <p>② 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を大阪市の平均以上にする。</p> <p> 基準1：45.3%以上 基準2：70.5%以上</p> <p> ※基準1…1か月の時間外勤務実績が30時間を超えないようにすること</p> <p> ※基準2…1か月の時間外勤務実績が60時間を超えないようにすること</p> <p>③ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>④ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。</p> <p> ○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 R6:100%</p> <p> ○ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <p> ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす割合を77%（100%を維持）以上にする。</p> <p>(R6 : 基準1 : 76.47% 基準2 : 100%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、各学年の発達段階に応じ協同学習支援ツールを用いた学習を実施する。</p>	
<p>指標 年度当初に校内活用ルールを明らかにするとともに、年間3回以上のICTに関する校内研修を実施し、「効果的なICT活用事例」の共有を図る。</p>	
<p>指標 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用した授業を実施する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。</p>	
<p>※裏面に記入欄あり</p>	

取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

ゆとりの日を月に1回設定・実施する。さらに、学研の日（ゆとりの日扱いとする）は18時退勤の取り組みを進める。

指標 時間外勤務実績60時間以上の教職員の割合0%を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【学びを支える教育環境の充実】